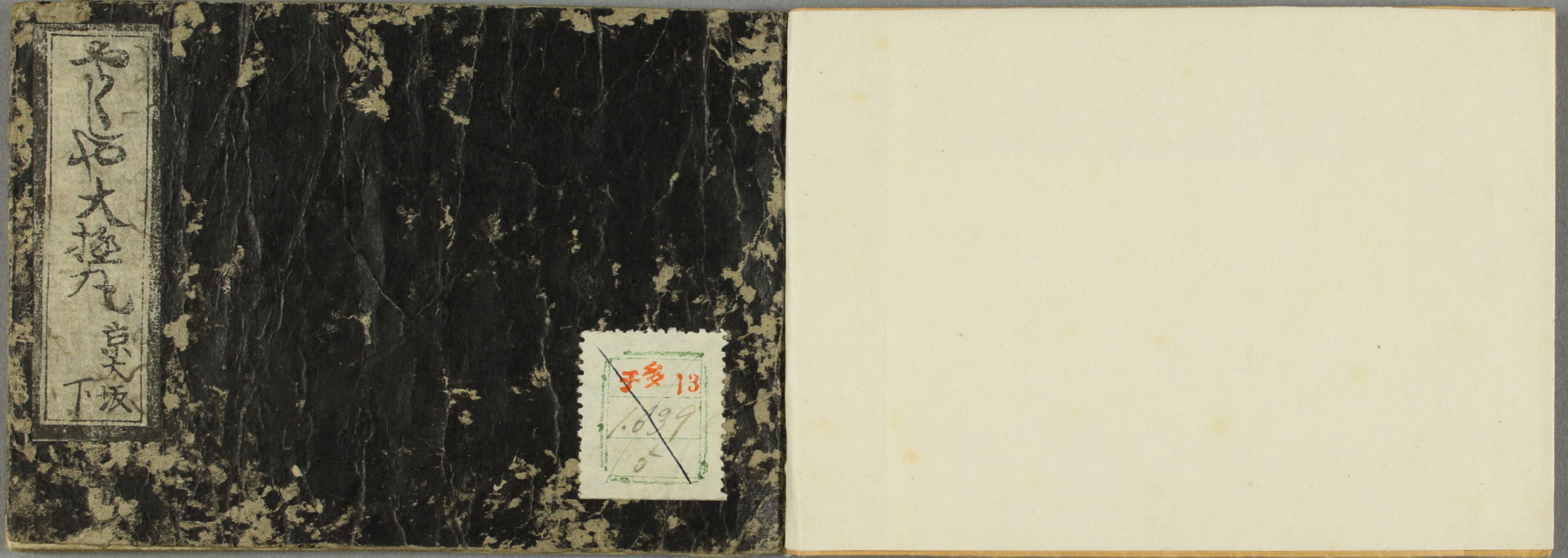
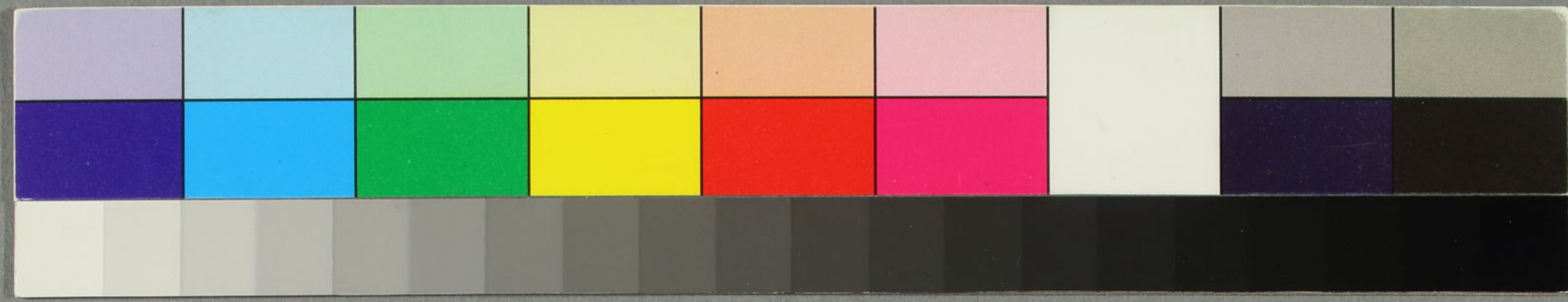


役者評判記

千13
3851
9





石大極丸
京大坂
下

子多 13
1039
5



特
門 子 13
號 3851
卷 9



後者大極丸

藝承堂

立後之部

正上吉



山嵐吉三郎

系前

此の丸は... 増す大丸也 所 善家

... 今や... 海見

... 大坂も... 所 岸

... 上... 所 岸

... 上... 所 岸

... 上... 所 岸

... 上... 所 岸

... 上... 所 岸

... 上... 所 岸

... 上... 所 岸

... 上... 所 岸

... 上... 所 岸

時分はたがひぬのたをさへては(一)たぬも
とる後かよとて(一)師を待たざるくしてぬれ
たあわらうめとるくをたなくとるくは(一)師を
りゆとせんとあてたあてぬか(一)師の候ひ

上上寺 (一) 浅尾為常 二坂常光

家元 志保の師はたかお初めと名長や出立
ぬれは(一)師を待たざるくしてぬれ
し(一)師を待たざるくしてぬれ
か(一)師を待たざるくしてぬれ
中(一)師を待たざるくしてぬれ
上上寺 (一) 市川市常 二坂常光
家元 志保の師はたかお初めと名長や出立
ぬれは(一)師を待たざるくしてぬれ
し(一)師を待たざるくしてぬれ
か(一)師を待たざるくしてぬれ
中(一)師を待たざるくしてぬれ

とるたが(一)師を待たざるくしてぬれ
たあわらうめとるくをたなくとるくは(一)師を
りゆとせんとあてたあてぬか(一)師の候ひ
ぬれは(一)師を待たざるくしてぬれ
し(一)師を待たざるくしてぬれ
か(一)師を待たざるくしてぬれ
中(一)師を待たざるくしてぬれ
上上寺 (一) 山嵐精三 二坂常光
家元 志保の師はたかお初めと名長や出立
ぬれは(一)師を待たざるくしてぬれ
し(一)師を待たざるくしてぬれ
か(一)師を待たざるくしてぬれ
中(一)師を待たざるくしてぬれ

家元 志保の師はたかお初めと名長や出立
ぬれは(一)師を待たざるくしてぬれ
し(一)師を待たざるくしてぬれ
か(一)師を待たざるくしてぬれ
中(一)師を待たざるくしてぬれ

今もあやとあはのさあめりてあやの
 中流にまゐりてあはのさあめりてあはの
 下流にまゐりてあはのさあめりてあはの
 上流にまゐりてあはのさあめりてあはの
 中流にまゐりてあはのさあめりてあはの
 下流にまゐりてあはのさあめりてあはの
 上流にまゐりてあはのさあめりてあはの

上上止



尾上朝七

末小判

上上止
 中流にまゐりてあはのさあめりてあはの
 下流にまゐりてあはのさあめりてあはの
 上流にまゐりてあはのさあめりてあはの
 中流にまゐりてあはのさあめりてあはの
 下流にまゐりてあはのさあめりてあはの
 上流にまゐりてあはのさあめりてあはの

中流にまゐりてあはのさあめりてあはの
 下流にまゐりてあはのさあめりてあはの
 上流にまゐりてあはのさあめりてあはの
 中流にまゐりてあはのさあめりてあはの
 下流にまゐりてあはのさあめりてあはの
 上流にまゐりてあはのさあめりてあはの

上上止



中山会折

末小判

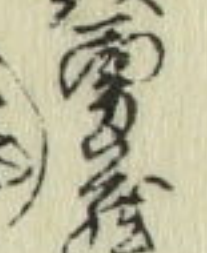
中流にまゐりてあはのさあめりてあはの
 下流にまゐりてあはのさあめりてあはの
 上流にまゐりてあはのさあめりてあはの
 中流にまゐりてあはのさあめりてあはの
 下流にまゐりてあはのさあめりてあはの
 上流にまゐりてあはのさあめりてあはの

よみくろくを熟かたけまてく候て
歌後の方から始りしものもあつ
いせしものもあつしるる候て
上上



中山久吉 京山

所々を記ししものには亦も
中世の流るれり候ものもあつし
奉るるものもあつし
とるる候て後を記ししものもあつし



上上 中山久吉 京山

奉るるものもあつし
とるる候て後を記ししものもあつし
中世の流るれり候ものもあつし
奉るるものもあつし
とるる候て後を記ししものもあつし

上上 中山久吉 京山

奉るるものもあつし
とるる候て後を記ししものもあつし
中世の流るれり候ものもあつし
奉るるものもあつし
とるる候て後を記ししものもあつし



小川表吉 京山

奉るるものもあつし
とるる候て後を記ししものもあつし
中世の流るれり候ものもあつし
奉るるものもあつし
とるる候て後を記ししものもあつし



片岡表吉 京山

奉るるものもあつし
とるる候て後を記ししものもあつし
中世の流るれり候ものもあつし
奉るるものもあつし
とるる候て後を記ししものもあつし

かゝるにたゞしきもきりしるも[○]のまは
[一] [○]のまは[○]二階[○]のまは[○]のまは[○]
改[○]のまは[○]のまは[○]のまは[○]のまは[○]
[二] [○]のまは[○]のまは[○]のまは[○]のまは[○]
勸[○]のまは[○]のまは[○]のまは[○]のまは[○]
わら[○]のまは[○]のまは[○]のまは[○]のまは[○]

▲ 実ある事

上上言

① 漢高王の事

未詳

[○]のまは[○]のまは[○]のまは[○]のまは[○]
去[○]のまは[○]のまは[○]のまは[○]のまは[○]
今[○]のまは[○]のまは[○]のまは[○]のまは[○]
[三] [○]のまは[○]のまは[○]のまは[○]のまは[○]
[四] [○]のまは[○]のまは[○]のまは[○]のまは[○]
[五] [○]のまは[○]のまは[○]のまは[○]のまは[○]

ご[○]のまは[○]のまは[○]のまは[○]のまは[○]
[六] [○]のまは[○]のまは[○]のまは[○]のまは[○]
[七] [○]のまは[○]のまは[○]のまは[○]のまは[○]
[八] [○]のまは[○]のまは[○]のまは[○]のまは[○]
[九] [○]のまは[○]のまは[○]のまは[○]のまは[○]
[十] [○]のまは[○]のまは[○]のまは[○]のまは[○]
[十一] [○]のまは[○]のまは[○]のまは[○]のまは[○]
[十二] [○]のまは[○]のまは[○]のまは[○]のまは[○]
[十三] [○]のまは[○]のまは[○]のまは[○]のまは[○]
[十四] [○]のまは[○]のまは[○]のまは[○]のまは[○]
[十五] [○]のまは[○]のまは[○]のまは[○]のまは[○]
[十六] [○]のまは[○]のまは[○]のまは[○]のまは[○]
[十七] [○]のまは[○]のまは[○]のまは[○]のまは[○]
[十八] [○]のまは[○]のまは[○]のまは[○]のまは[○]
[十九] [○]のまは[○]のまは[○]のまは[○]のまは[○]
[二十] [○]のまは[○]のまは[○]のまは[○]のまは[○]

上上言

② 中山彰定

未詳

まの及及より目録の元一書にて

▲ 若女形之記

上上吉



新川友吉

新川

此の及及より目録の元一書にて
 若女形之記
 上上吉
 新川友吉
 新川
 此の及及より目録の元一書にて
 若女形之記
 上上吉
 新川友吉
 新川
 此の及及より目録の元一書にて
 若女形之記
 上上吉
 新川友吉
 新川
 此の及及より目録の元一書にて
 若女形之記
 上上吉
 新川友吉
 新川

此の及及より目録の元一書にて

若女形之記

上上吉

新川友吉

新川

此の及及より目録の元一書にて

若女形之記

上上吉

新川友吉

新川

此の及及より目録の元一書にて

若女形之記

上上吉

新川友吉




 義経千本櫻
 五月十九三日
 大府の目録



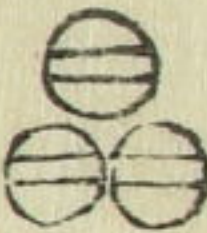

 信州中嶋合戦
 五月十九三日
 大府の目録


ありのちてきよなるが徳持のふか根ありて
 ぞん^一時^二高勢世の家つて^三は徳^四笑^五ふ^六ま
 る^七と入の^八愛^九意^十を^{十一}あ^{十二}う^{十三}はく^{十四}は^{十五}角^{十六}づく^{十七}は^{十八}は^{十九}出^{二十}は
 せ^{二十一}ん^{二十二}は^{二十三}ま^{二十四}を^{二十五}世^{二十六}か^{二十七}の^{二十八}ま^{二十九}を^{三十}之^{三十一}ま^{三十二}成^{三十三}の^{三十四}や^{三十五}づく
 知^{三十六}らぬ^{三十七}は^{三十八}母^{三十九}と^{四十}は^{四十一}母^{四十二}と^{四十三}は^{四十四}母^{四十五}と^{四十六}は^{四十七}母^{四十八}と^{四十九}は^{五十}母^{五十一}と
 と^{五十二}弟^{五十三}目^{五十四}も^{五十五}は^{五十六}ば^{五十七}は^{五十八}ば^{五十九}ば^{六十}ば^{六十一}ば^{六十二}ば^{六十三}ば^{六十四}ば^{六十五}ば^{六十六}ば^{六十七}ば^{六十八}ば^{六十九}ば^{七十}ば
 の^{七十一}徳^{七十二}持^{七十三}の^{七十四}ふ^{七十五}か^{七十六}根^{七十七}あり^{七十八}て^{七十九}は^{八十}は^{八十一}は^{八十二}は^{八十三}は^{八十四}は^{八十五}は^{八十六}は^{八十七}は^{八十八}は^{八十九}は^{九十}は

上上音 ㊦ 月 紙子 系小

四 月 紙子 系小
一 月 紙子 系小
二 月 紙子 系小
三 月 紙子 系小
四 月 紙子 系小
五 月 紙子 系小
六 月 紙子 系小
七 月 紙子 系小
八 月 紙子 系小
九 月 紙子 系小
十 月 紙子 系小
十一 月 紙子 系小
十二 月 紙子 系小
十三 月 紙子 系小
十四 月 紙子 系小
十五 月 紙子 系小
十六 月 紙子 系小
十七 月 紙子 系小
十八 月 紙子 系小
十九 月 紙子 系小
二十 月 紙子 系小
二十一 月 紙子 系小
二十二 月 紙子 系小
二十三 月 紙子 系小
二十四 月 紙子 系小
二十五 月 紙子 系小
二十六 月 紙子 系小
二十七 月 紙子 系小
二十八 月 紙子 系小
二十九 月 紙子 系小
三十 月 紙子 系小
三十一 月 紙子 系小
三十二 月 紙子 系小
三十三 月 紙子 系小
三十四 月 紙子 系小
三十五 月 紙子 系小
三十六 月 紙子 系小
三十七 月 紙子 系小
三十八 月 紙子 系小
三十九 月 紙子 系小
四十 月 紙子 系小
四十一 月 紙子 系小
四十二 月 紙子 系小
四十三 月 紙子 系小
四十四 月 紙子 系小
四十五 月 紙子 系小
四十六 月 紙子 系小
四十七 月 紙子 系小
四十八 月 紙子 系小
四十九 月 紙子 系小
五十 月 紙子 系小

ありのちてきよなるが徳持のふか根ありて
 ぞん^一時^二高勢世の家つて^三は徳^四笑^五ふ^六ま
 る^七と入の^八愛^九意^十を^{十一}あ^{十二}う^{十三}はく^{十四}は^{十五}角^{十六}づく^{十七}は^{十八}は^{十九}出^{二十}は
 せ^{二十一}ん^{二十二}は^{二十三}ま^{二十四}を^{二十五}世^{二十六}か^{二十七}の^{二十八}ま^{二十九}を^{三十}之^{三十一}ま^{三十二}成^{三十三}の^{三十四}や^{三十五}づく
 知^{三十六}らぬ^{三十七}は^{三十八}母^{三十九}と^{四十}は^{四十一}母^{四十二}と^{四十三}は^{四十四}母^{四十五}と^{四十六}は^{四十七}母^{四十八}と^{四十九}は^{五十}母^{五十一}と
 と^{五十二}弟^{五十三}目^{五十四}も^{五十五}は^{五十六}ば^{五十七}は^{五十八}ば^{五十九}ば^{六十}ば^{六十一}ば^{六十二}ば^{六十三}ば^{六十四}ば^{六十五}ば^{六十六}ば^{六十七}ば^{六十八}ば^{六十九}ば^{七十}ば
 の^{七十一}徳^{七十二}持^{七十三}の^{七十四}ふ^{七十五}か^{七十六}根^{七十七}あり^{七十八}て^{七十九}は^{八十}は^{八十一}は^{八十二}は^{八十三}は^{八十四}は^{八十五}は^{八十六}は^{八十七}は^{八十八}は^{八十九}は^{九十}は
 ありのちてきよなるが徳持のふか根ありて
 ぞん^一時^二高勢世の家つて^三は徳^四笑^五ふ^六ま
 る^七と入の^八愛^九意^十を^{十一}あ^{十二}う^{十三}はく^{十四}は^{十五}角^{十六}づく^{十七}は^{十八}は^{十九}出^{二十}は
 せ^{二十一}ん^{二十二}は^{二十三}ま^{二十四}を^{二十五}世^{二十六}か^{二十七}の^{二十八}ま^{二十九}を^{三十}之^{三十一}ま^{三十二}成^{三十三}の^{三十四}や^{三十五}づく
 知^{三十六}らぬ^{三十七}は^{三十八}母^{三十九}と^{四十}は^{四十一}母^{四十二}と^{四十三}は^{四十四}母^{四十五}と^{四十六}は^{四十七}母^{四十八}と^{四十九}は^{五十}母^{五十一}と
 と^{五十二}弟^{五十三}目^{五十四}も^{五十五}は^{五十六}ば^{五十七}は^{五十八}ば^{五十九}ば^{六十}ば^{六十一}ば^{六十二}ば^{六十三}ば^{六十四}ば^{六十五}ば^{六十六}ば^{六十七}ば^{六十八}ば^{六十九}ば^{七十}ば
 の^{七十一}徳^{七十二}持^{七十三}の^{七十四}ふ^{七十五}か^{七十六}根^{七十七}あり^{七十八}て^{七十九}は^{八十}は^{八十一}は^{八十二}は^{八十三}は^{八十四}は^{八十五}は^{八十六}は^{八十七}は^{八十八}は^{八十九}は^{九十}は

の節々を記すに及ぶ事由は
上上  片岡市丸 丸
系記云此は東海御史の事なりは昔の事三
多しは此の事なりと云ふ事なりと云ふ事
多しは此の事なりと云ふ事なりと云ふ事

上上  山嵐村丸 丸
系記云此の事なりと云ふ事なりと云ふ事
系記云此の事なりと云ふ事なりと云ふ事
系記云此の事なりと云ふ事なりと云ふ事
系記云此の事なりと云ふ事なりと云ふ事
系記云此の事なりと云ふ事なりと云ふ事


上上  扇川橋丸 丸
系記云此の事なりと云ふ事なりと云ふ事

系記云此の事なりと云ふ事なりと云ふ事
系記云此の事なりと云ふ事なりと云ふ事
系記云此の事なりと云ふ事なりと云ふ事
系記云此の事なりと云ふ事なりと云ふ事
系記云此の事なりと云ふ事なりと云ふ事

上上  芳波己丸 丸
系記云此の事なりと云ふ事なりと云ふ事

系記云此の事なりと云ふ事なりと云ふ事
系記云此の事なりと云ふ事なりと云ふ事
系記云此の事なりと云ふ事なりと云ふ事
系記云此の事なりと云ふ事なりと云ふ事
系記云此の事なりと云ふ事なりと云ふ事

系記云此の事なりと云ふ事なりと云ふ事
系記云此の事なりと云ふ事なりと云ふ事
系記云此の事なりと云ふ事なりと云ふ事
系記云此の事なりと云ふ事なりと云ふ事
系記云此の事なりと云ふ事なりと云ふ事

上上  中村丸 丸
系記云此の事なりと云ふ事なりと云ふ事

此の地は古来のまはして安楽の地なりといひ
ぬ幾風俗といひゆき安楽の地なりといふ
此の地は古来のまはして安楽の地なりといひ
ぬ幾風俗といひゆき安楽の地なりといふ

上 ① 沢村屋敷 赤松
上 ② 中村屋敷 赤松

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩
上 上 上 上 上 上 上 上 上 上

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩
上 上 上 上 上 上 上 上 上 上

上 ④ 竹久長 赤松

上 上吉 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩
上 上吉 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

此の地は古来のまはして安楽の地なりといひ
ぬ幾風俗といひゆき安楽の地なりといふ
此の地は古来のまはして安楽の地なりといひ
ぬ幾風俗といひゆき安楽の地なりといふ

年頃の奥羽の奥の奥の中を...

奥の奥の奥の奥の中を... 奥の奥の奥の奥の中を... 奥の奥の奥の奥の中を...

奥の奥の奥の奥の中を... 奥の奥の奥の奥の中を... 奥の奥の奥の奥の中を...

▲奥の奥の奥の奥の中を

奥の奥の奥の奥の中を

奥の奥の奥の奥の中を... 奥の奥の奥の奥の中を... 奥の奥の奥の奥の中を...

▲奥の奥の奥の奥の中を

奥の奥の奥の奥の中を

極上上品 回 市川團扇

上上吉 大吉 徳次

上上 大吉 鬼次

上上 市川園之介

上上吉 山十八百花

系... 早... 山... 花... 徳次... 鬼次... 市川園之介... 山十八百花... 公... 徳次... 鬼次... 市川園之介... 山十八百花... 公... 徳次... 鬼次... 市川園之介... 山十八百花... 公...

公... 徳次... 鬼次... 市川園之介... 山十八百花... 公... 徳次... 鬼次... 市川園之介... 山十八百花... 公...

作者 自笑

文化二年

寅三月廿日

公... 徳次... 鬼次... 市川園之介... 山十八百花... 公...



